

2022年度 須磨学園高等学校入学試験

学力検査問題

国 語

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼^はり、受験番号を記入しなさい。

1. すべての問題を解答すること。
2. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
3. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。

※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

須磨学園高等学校



建物賃貸借契約書

賃貸人須磨太郎（以下「甲」）と、賃借人須磨花子（以下「乙」）は、建物の賃貸借に関し、次のとおり契約（以下「本契約」）を締結した。

（賃貸借の目的物）

第1条 甲は、乙に対し、次条以下の条件により、次に表示する物件（以下「本建物」）を賃貸する。

名称・住戸番号	スマスママンション 1号室
所在地	兵庫県神戸市須磨区
構造	鉄筋コンクリート造 3階建
間取り	2LDK

（使用目的）

第2条 乙は、本建物を住居の目的にのみ使用し、計1名が居住する。

（契約期間）

第3条 本契約の期間は、令和2年1月30日より、令和4年1月30日までの2年間とする。
ただし、契約期限の2カ月前までに甲乙双方より特段の意思表示がないときは、自動的に同一条件で1年間契約が更新されるものとする。

（賃料）

第4条 賃料は1カ月金10万円とする。

（諸費用）

第5条 乙は、本契約期間中、前条に定める賃料のほかに、次の各号に掲げる費用（以下「諸費用」）を支払う。

- 一 共益費^{注1}
- 二 駐車料
- 三 火災保険料

（賃料等の支払時期及びその方法）

第6条 毎月15日までに、賃料と諸費用（以下「賃料等」）の翌月分を甲の指定する方法により甲に支払う。なお、契約月の賃料等は1カ月を30日とした日割計算とする。

（賃料等の改訂）

第7条 甲は、賃料等が経済事情及び公租公課^{注2}の変動または近隣の賃料等との比較により不相当となった場合、契約期間中であっても、賃料等の増額を請求することができる。
また、乙はその通告に対して事由を確認し、不当な請求であることが証明できれば、異議を申し立てることができる。

（敷金）

第8条

- 1 乙は、敷金^{注3}として金20万円を甲に支払う。
- 2 敷金は、乙が本契約終了にともなう本建物の明渡しを完了した場合において、未納の賃料、延滞損害金、損害賠償金^{ばいしょう}があるときはこれらを相殺し、その残額を1カ月以内に乙に返還する。
- 3 敷金には利息をつけない。

（公租公課）

第9条 本建物に関する公租公課は、甲が支払う。

（公共料金）

第10条 電気、ガス、水道等公共料金は、乙が支払う。

（小修繕義務）

第11条 本建物の部分的な小修繕は、乙がその費用を負担して行う。

(緊急解約)

第17条 乙が前条第二号に違約して退去しようとする場合(緊急解約)は、解約予告日より30日分の賃料相当額を日割計算により支払わなければならない。

(契約解除)

第18条 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当する場合は、催告その他の法定の手続きによらず、ただちに本契約を解除できる。

- 一 賃料を2カ月分以上滞納したとき
- 二 2カ月以上不在となり、本契約の継続意思がないと認められるとき
- 三 その他本契約に違反したとき

(行方不明の場合の措置)

第19条 前条第二号の場合、甲は連帯保証人その他立会人の立ち会いの上、乙の家財その他の所有物(以下「所有物等」)を適当な方法により任意の場所に保管し、その後1カ月を経過しても引取人のないときは、乙は所有物等に関する一切の権利を放棄する。

(契約の即時終了)

第20条 本契約は、次の各号のいずれかに該当する場合は、甲は乙に通知することなく、即時に終了する。

- 一 本建物が火災、地震等の災害その他の理由により滅失したとき
- 二 本建物の全部又は一部が公権力等により買い上げ、収容又は使用されることが判明したとき

(延滞損害金)

第21条 乙は、本契約により生じる金銭債務の支払いを遅滞したときは、延滞損害金として支払日までの利息年率1割を支払う。

(賃貸人の立入り)

第22条 甲は、緊急事態の発生及び本建物の維持管理上必要があると認められるときは、本建物内へ立入ることができる。

(賃借人の届出義務)

第12条 乙又は連帯保証人^{注4}は、次の各号のいずれかに該当する場合は、次の各号にしたがい、ただちにその旨を通知しなければならない。

- 一 乙の居住者全員が、引き続き1カ月以上建物に居住しなくなるとき
- 二 乙又は連帯保証人の住所、氏名、勤務先その他に変更が生じたとき
- 三 連帯保証人が死亡又は解散したとき
- 四 本建物が破損・毀損^{注5}・滅失等したとき、又はそのおそれがあるとき

(賃貸人の承諾を必要とする事項)

第13条 乙は、次の各号のいずれかに該当する場合は、事前に甲の承諾を受けなければならない。

- 一 本建物のリフォーム、改造、造作等の現状を変更しようとするとき
- 二 入居申込書の居住者氏名の欄に記載されていない者を同居させようとするとき
- 三 連帯保証人を変更しようとするとき

(本建物等の破損等による損害賠償義務)

第14条

- 1 乙は、自己又は乙の同居者等の故意・過失により、本建物及び設備を破損・毀損、滅失、故障等させたときは、その損害を甲に賠償しなければならない。
- 2 乙が甲の承諾なく本建物に変更を加えたときは、甲はただちにこれを原状に回復させ、又は損害を賠償させることができる。

(禁止事項)

第15条 乙は、次の各号に掲げる事項をしてはならない。

- 一 本建物の全部又は一部を転貸し、もしくは本建物の賃借権を譲渡すること
- 二 動物(犬猫等)を飼育すること

(解約通知)

第16条 甲又は乙は、本契約を解約しようとする場合、それぞれ次の各号にしたがい、相手方に通知しなければならない。

- 一 甲においては、解約するについての正当な事由があり、かつ解約日前6カ月以上の猶予期間^{ゆうよ}をおくこと
- 二 乙においては、退去日(建物の明渡し)前30日以上^{ゆうよ}の猶予期間をおくこと

(建物の明渡し)

第23条

- 1 乙は、本建物の明渡しに際し、乙の保有する所有物等をすべて取去しなければならない。
- 2 本建物に加えた変更については、本契約時の原状に復し、甲の立ち会いのもと本建物の引渡しを行う。
- 3 乙は、本契約終了時に、本建物の明け渡しをしない間は、その開始月より月割で賃料等相当額の損害金を支払う。
- 4 乙は、本建物の明渡しに際し、甲に対して移転料その他の名目で金銭を請求することはできない。

(連帯保証人)

第24条

- 1 連帯保証人は、乙と連帯して、本契約に基づく一切の債務について履行の責を負う。
- 2 連帯保証人は、本契約の更新がなされた後も、引き続きその責を負う。
- 3 甲は連帯保証人が死亡又は解散したとき、その他甲において必要と認めるときは、その変更又は追加を求めることができる。

(訴訟管轄)

第25条 本契約に関する訴訟は、本建物所在地の^{かんかつ}管轄裁判所とする。

－ 5 / 5 －

注1 共益費 …… 借家人が共同で使用したり、利用する設備の運営及び維持するために必要な費用。

注2 公租公課 …… 国や地方公共団体により賦課徴収される公的負担の総称。ここでは土地や建物に関する税金を指す。

注3 敷金 …… 家屋の貸借の際に、借主が契約上の債務を担保する目的であらかじめ貸主に差し出す金銭。

注4 連帯保証人 …… 主債務者が返済できなくなった場合、代わりに返済する義務を負う。通常の保証人が返済拒否を主張できるのに対し、連帯保証人は主債務者と同様の返済義務が生じる。

注5 毀損 …… ものを壊すこと。

一 設問

問一 太郎さんから花子さんに、「来月より賃料を3万円値上げする」との予告がありました。その場合、契約書に照らし合わせると、花子さんはどのような行動をとることができますか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 契約期間内の賃料は契約時に定められていると主張し、値上げを無効にすることができる。
- 2 契約時に取り決められていないと主張し、その場で解約通告を行い、お金を払わずに退去することができる。
- 3 契約時の賃料との差額を計算し、立ち退く際に引越し費用の一部として請求することができる。
- 4 賃料を値上げする理由を太郎さんに質問し、太郎さんと値上げについて協議することができる。

問二 次の花子さんの行動に関して、契約書と照らし合わせて問題がない行為を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 起業した友人を応援するため、花子さんは自らの住居を事務所として貸しだし、友人から賃料を取った。
- 2 花子さんは転居を検討していたが、新たな転居先が見つからなかったため、太郎さんに連絡もせず、契約の期間が過ぎた後も続けて住居として使用した。
- 3 海外留学に3週間行ったが、その月のみ実際に住んでいた日の分だけ、賃料を日割り計算して支払うことにした。
- 4 8月10日に、身内の不幸により10日以内の転居が必要になったため、8月分の賃料を支払った上で引き渡す旨を太郎さんに伝えた。

問三 次の太郎さんの行動に関して、契約書と照らし合わせて問題がある行為を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 花子さんが家賃を3か月滞納したため、連絡をせずに契約の解除を行い、別の人物と新たに賃貸契約を結んだ。
- 2 花子さんの連帯保証人が仕事を辞めたと聞いたので、花子さんに別の人物を連帯保証人に追加するように連絡した。
- 3 花子さんが建物を改築して子ども部屋を新たに増設したため、太郎さんは改築した箇所を元に戻すよう命じ、同時に契約解除を通告した。
- 4 花子さんが退去する際、引越し費用や建物にかかる税金を引いた額の敷金を花子さんに返還した。

問四 次の文章は、太郎さんとその友人次郎さんの会話です。

空欄 ☐ X に入る発言として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

太郎 実は最近、花子さんの賃貸について揉めてるんだ。

次郎 へえ、どんな感じなの。

太郎 まず、犬を飼いたいと交渉してきた。けれど犬を飼うと部屋が汚れるから認めたくないんだ。

次郎 ふむふむ。契約書を見せてもらえるかい。

太郎 はい。これだよ。あ、問題はそれだけじゃない。建物にかかる税金をこつちが払うように言ってきた。しかも来月には市が建物のある場所を道路にするから退去してほしい旨も伝えているのに、契約期間が半年残っているのを理由に聞き入れてくれない。どうしたらよいかなあ。

次郎 なるほどね。

☐ X。

1 契約書を見る限り、太郎さんの発言に関して内容に反する行為や請求はないから、主張を変える必要はない。困っているなら、裁判所に訴えて、適当な措置を取れるようにするのがいいんじゃないかな。

2 契約書を見る限り、他のことに関しては主張を変える必要はないと思うけど、契約期間の間は花子さんの主張通り、住まわせるしかなさそうだね。一度花子さんと話し合う場を設けてみたらどうか。

3 契約書を見る限り、建物の税金に関しては花子さんの主張が正しいね。ただ、他のことに関しては太郎さんの主張が正しいと思うから、一度花子さんに契約書の内容を再確認してもらおうのが良いんじゃないかな。

4 契約書を見る限り、概ね花子さんの主張は正しいと思うけど、犬を飼う件に関しては太郎さんの主張が正しいね。だから、裁判所に訴えるのも視野に入れて、花子さんと一度話し合ってみるのが良いんじゃないかな。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

学習速度の差は自然

もう三十年以上も前、私は精神医学を学ぶために南仏のマルセイユに住んでいました。オン師^aのムーラン先生が、かつての自分の自宅兼診療所を無料で貸してくれたので、かなり広い家でした。私たちの住まいは建物の二階全体を占めていて、ベランダから中庭に降りて行く階段があり、その中庭も、私たち一家の占有物になっていました。このたたずまいは、『ヒトラーの防具』で、主人公が住む家として描出しています。

長男は小学一年、次男は幼稚園に通っていたのです。フランス語が分からなくても、どうせ一年生ですから、必要になったら、その場で覚えればいいというくらい、学校の方針はゆるやかでした。

そもそも、就学のために近くの小学校に行ったその日から、「はいそれでは、お子さんを預ります」だったのです。この鷹^{おわ}揚^{よう}さと大胆さには、ド^b肝^{かん}を抜かれました。

あるとき、長男が友人を家に連れて来ました。マルセイユは多人種の集まりで、北アフリカのアラブ系の人やアフリカからの黒人、それに東南アジアの旧フランス領からの移民も多く、人種の埒^{らち}埒^ちと言^いっていい町でした。

そのとき家に来た長男^①のクラスメートは、大半がアラブ系の子弟でした。驚いたのは、そのうちのひとりが、大人顔負けの背丈をしていたからです。普通なら、小学六年か中学生の体格です。不思議に思^きって訊^きくと、覚えが悪いので、一年生を何年かやっているという返答でした。悪びれもせず、明るく答えたので二度驚いたくらいです。

そうかマルセイユの小学校は、落第があるのだと感心しました。日本でなら子供が落第させられたとなれば、親が学校に乗り込んでいくでしょう。

学習の速度が遅い者は、その学年を何度でも繰り返す。考えてみれば、これが当然のやり方です。それぞれ、人によって学習速度に差が出るのは当然です。早く覚えてトントンビ^cヨウ子^しで進級したあと、頓挫^{とんざ}する学生もいれば、スタートは遅くても、いったんのみ込んでしまえば、あとは学習が円滑に進んで、追い越す子もいるでしょう。

本来、教育というのはそれが本当のあり方ではないでしょうか。ところが、今日の教育は **X** 的です。横並びで一年一年を足並揃^{そろ}えて、上級学年に上がっていく体制になっています。

その結果、採用されたのが到達目標とその達成度です。その到達目標も、個々人に合った目標ではありません。あくまで一年毎の建前としての到達目標です。私は学校教育が到達目標を設定したときから、学校が変質したような気がします。

小学一年はこれこれ、小学三年はこれこれという具合に、目標が決められると、必ず落ちこぼれが出ます。市民マラソンと同じで、遅れた走者は車が拾^{ひろ}っていきます。何時間も道路を封鎖できないからです。

車に拾われた子供はどうなるのでしょうか。次の年のマラソン

ンでも、やはり車に拾われて、とうとう小学校を卒業するまで、毎年車に拾われる六年間を過ごします。中学校でどうなるかは、もう自明です。これでは、学校が苦業の場となる子供が出てても仕方ありません。

ところでん式の進級と進学に輪をかけているのが、試験です。この試験突破こそが、学習の最終目標と化^②してしま^②うと、たしなみ、素養としての教育ではなくなります。問題解決のための学習、勉強になってしまうのです。

解決できない問題に向かうために

こうした教育の現場に働いているのは、教える側の思惑です。もつと端的に言えば「欲望」です。教える側が、一定の物差しを用いて教え、生徒を導くのです。物差しが基準ですから、そこから逸したさまざまな事柄は、切り捨てられます。何よりも、教える側が、問題を狭く設定してしまっています。そのほうが「解答」を手早く教えられるからです。

しかしここには、何かが決定的に抜け落ちています。世の中には、そう簡単には解決できない問題が満ち満ちているという事実が、伝達されていないのです。前述したように、むしろ人生が生きていくうえでは、解決できる問題よりも解決できない問題のほうが、何倍も多いのです。

そこでは教える側も、教えられる側も視野狭^{きょうさく}窄^{さく}に陥^おってしまっています。無限の可能性を秘めているはずの教育が、ちっぽけなものになっていきます。もう素養とか、たしなみでもなくなってしまうです。

この教育の場では、そもそも解決のできない問題など、眼中から消え去っています。いや、たとえ解決できても、即答できないものは、教えの対象にはなりません。

教育者のほうが、教育の先に広がっている無限の可能性を忘れ去っているので、教育される側は、ヘイ塞^{そく}感^{かん}ばかりを感じとってしまいがちです。学習の面白さではなく、白々しさばかりを感じて、学びへの興味を失うのです。

学べば学ぶほど、未知の世界が広がっていく。学習すればするほど、その道がどこまでも続いているのが分かる。あれが峠だと思^{おも}って坂を登りつめても、またその後ろに、もうひとつ高い山が見える。そこで登るのをやめてもいいのですが、見たか^たらにはあの峰に辿^{たど}りついてみたい。それが人の心の常であり、学びの力でしょう。つまり、答えの出ない問題を探し続ける挑戦こそが教育の真髄でしょう。

教育の現場が視野狭窄に陥っているため、親はそれ以上に視野が狭くなっています。学校の課題だけを早くこなすように、子供に強制しがちです。早くやりなさい、ぐずぐずしないで宿題を先にしなさい。これが口癖^{くぐべ}になります。

学習と言えば、学校の課題、塾の課題をこなすことだと、早合点してしまいがちです。世の中には、もつと他に学ぶべきものがあるのに、親はそれを子供に伝えるのさえも忘れてしまします。

本文は、裏面に続きます。

星の美しさ、朝日や夕日の荘厳さ、木々の芽ぶきの季節のすこやかさ、花々の名前や木々を飛び交う鳥の姿と鳴き声も、まづ大人の感受性はとらえられなくなっています。子供に伝えられるはずがありません。

美術館で、ひとつの絵や彫刻を前にしたときの感動も、大人が関心を持っていなければ、子供が感動を覚えるはずがありません。

まして、音楽や美術には、問題設定もその解決もありません。むしろ、解決できない宙ぶらりんの状態で、その芸術家が何とかして自分なりの仮の解答をさし出したのが芸術だからです。芸術には、問題解決という課題が課せられていないので、学習がまだその本質を失っていません。見た者、聞いた者は、何かを感じ、生の喜びを実感します。人生の無限の深さに感動するのもかもしれません。

詩もそうでしょう。詩はそもそも、何かを解決するため、結着をつけるために書かれるものではありません。音のつながり、意味の連関を味わい、感動するものです。

孔子の言行を集録した『論語』は、およそ三分の一が芸術論になっているそうです。論じられているのは、絵画、詩、演劇、音楽で、真の人間になるためには、芸術を学ばねばならないと強調されていると言います。

おそらくそれは、わけの分からないもの、解決不能なものを尊び、注視し、興味をもって味わっていく態度を養成するためなのかもしれません。崇高なもの、魂に触れるものというの

は、ほとんど論理を超越した宙ぶらりんのところにあります。むしろ人生の本質は、そこにあるような気がします。

問題設定が可能で、解答がすぐに出るような事柄は、人生のほんの一部でしょう。残りの大部分は、わけが分からないまま、興味や尊敬の念を抱いて、生涯かけて何かを掴みとるものです。それまでは耐え続けなければならないのです。私が思い出すのは、第二章で述べたビオンの言葉です。ネガティブ・ケイパビリティを持つには、記憶・理解・欲望が邪魔をするとビオンは断言します。

現代の教育は、到達目標という **Y** があるために、時間に追われながら、詰め込み記憶を奨励しつつ、とりあえず理解させようとしています。ネガティブ・ケイパビリティが育つべくもありません。

（ははきぎはうせい 帚木蓬生）

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』

より）

二の設問

問一 ――線部 a ～ d のカタカナ部に相当する漢字を含むものを、次の各群の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a オン師

- 1 「満員オン礼」の表示。 2 観世オン菩薩に祈る。
3 彼はオン厚な人柄だ。 4 オンにきる。

b ド肝

- 1 ド経の声が聞こえる。 2 ド髪天を衝く。
3 ワタし舟に乗る。 4 このタビはおめでとう。

c トントンビヨウ子

- 1 ビヨウ死したおっかさん。 2 ビヨウに気を配る。
3 ハク手喝采雨あられ。 4 正直にハク状する。

d ヘイ塞感

- 1 驕るヘイ家は久しからず。 2 天窓を開ヘイする。
3 宮殿の衛ヘイ。 4 土ベイの美しい城下町。

問二 「長男のクラスメート」(――線部①)と話した時の

「私」の心情を説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 小学校一年生の割には体格が良かったうえに、物覚えが悪いので留年し続けていることを初めて会っただけにすぎない「私」に打ち明けたため、マルセイユでは落第の制度が当たり前のもので存在していることに衝撃を受けている。

2 長男の級友であるにも関わらず身長が大人と同じくらいで意外であつたうえに、何回も一年生をしているということに病むふうでもなく「私」に明かしたため、マルセイユには落第の制度があることに気づかされ、深く心を動かされている。

3 アラブ系の子弟は日本人にくらべて背が高いうえに、成績がかんばしくないので何年か一年生をしていたという事実が明らかになったため、マルセイユでも落第の制度が息づいているという事実を目の当たりにし、ド肝を抜かれている。

4 小学校一年生にはそぐわない体つきをしていたうえに、何度目かの一年生を学校が強いても親が学校に文句を言いに来ることもないようであるため、マルセイユでは日本ほどは親も子供もあくせくしていないことに気づき感心している。

問三 空欄 X にあてはまる言葉として最も適当なものを

次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 基礎 2 画一 3 一方 4 計画

問四 学校でなされる教育が「たしなみ、素養としての教育で

はなくなります」(――線部②)とありますが、何を契機として学校教育がたしなみ、素養としての教育ではなくなると考えられますか。それを説明した次の文の空欄に、本文中から十四字の表現を抜き出して補い、文を完成させなさい。

▽ ことを契機としている。

問五 「視野狭窄に陥ってしまっています」(――線部③)と

ありますが、「視野狭窄に陥」るとはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 一定の基準を満たさない問題の存在を意識しつつも、教える側は答えを効率よく生徒に教えるために解決できる問題ばかり提供すること。

2 世の中の解決できない問題を視野に入れることなく、教える側が解答を教えやすい問題を選択した結果、生徒は、学習に面白さを見出せないということ。

3 教える側が世の中にあるのは解決できない問題ばかりだということを伝えなため、生徒がそれらの問題に興味を持つことは不可能だということ。

4 教える側が即答できる問題以外は扱わないという断固とした姿勢をつらぬくため、生徒の成績は行き詰まり、落ちこぼれてしまうということ。

問六 空欄 Y にあてはまる最も適当な二字の言葉を、本

文の「解決できない問題に向かうために」の章から抜き出して答えなさい。

設問は、裏面に続きます。

問七 以下の会話は、本文の「解決できない問題に向かうために」の章を読んだ生徒達の発言です。本文の趣旨に最もふさわしい生徒の発言を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 生徒A 第一段落（こうした教育の……）から第五段落（教育者のほうが……）までに出てきている問題は、学校の音楽や美術の時間では全くみられないんだね。
- 2 生徒B 学校の国語の時間に詩や論語を扱えば、筆者が指摘する問題は解決するね。
- 3 生徒C 教育の現場の視野を広げれば、生徒も親も視野が広がるという風に読めるね。
- 4 生徒D 教育の現場の視野が狭くなるため、大人は花々の名前や鳥の鳴き声を感じできないんだね。

問八 次の文章は、本文とは別の章段を一部抜粋したものです。本文の内容を踏まえて、空欄「 一 」にあてはまる最も適当な言葉を、本文中から**五字程度**で抜き出して答えなさい。

〈問題〉を性急に措定せず、生半可な意味づけや知識でもって、未解決の問題にせっかちに帳尻を合わせず、【 一 】の状態を持ちこたえるのがネガティブ・ケイパビリティだとしても、実践するのは容易ではありません。

三の設問

問一 「昂^{こう}じて」(~~~~線部)の本文中における意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 病状が悪化して
- 2 生活が苦しくなって
- 3 気持ちが増長して
- 4 程度が甚だしくなって

問二 「そのことは絵のみならずこの世のあらゆるモノについて当てはまることではあるまいか」(——線部①)とはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人間が絵を所有できる期間は有限であり、絵は人間の生を超えて無限に存在し続けるものであるという論理は、絵を含むすべての物質にもみられるということ。
- 2 人間が所有する時間よりも長くものが存在するという論理は、絵のみならずすべてのものに対して当てはまることではないのだろうということ。
- 3 人間の生きている期間を超えて価値がある絵は現世に存在し続けるが、絵だけでなく価値あるものであればすべてがそうなのだろうということ。
- 4 人間が絵を所有できる期間は人間の生よりも長いという論理は、絵だけでなく私たちの身のまわりのものすべてに適用できるということ。

問三 「絵の本質と画家の思想の根幹に触れる」(——線部②)とはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 一つの部屋に一つの作品を飾り、それを眺めることを生活の一部とすることでのみ絵の技法を会得でき、画家が絵を描くに至った経緯を理解することができるということ。
- 2 一つの生活の空間に一つの絵において時間をかけて眺めることで、はじめてその絵のことや絵を描くに至った画家の動機や内面を知ることができるということ。
- 3 ゴッホ以外の作品を見ることがなく、長い時間をかけてゴッホの内面と同化することで、ゴッホの描いた絵を理解する手がかりをつかむことができるということ。
- 4 画家が美術館に自身の作品を並べるために絵を描いたわけではないと認識することで、画家を突き動かした感情に触れ、絵のことも理解できるということ。

問四 「独特の発想を育てること」(——線部③)とはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ラリックの花瓶にふさわしい内装を空想することを通して、小さなものを中心に据えて建物全体の在り方を決定するという新保独自の考え方が育まれたということ。
- 2 ラリックの花瓶を愛することで大きなものと同様に小さなものにも価値を見出し、それらをデザインするという新保ならではの考え方が育まれたということ。
- 3 ラリックの花瓶をもとにイメージを膨らませていくという手法を建築技法に応用し、小さなものを最重要視するという新保独自の建築技法が編み出されたということ。
- 4 ラリックの花瓶を美術館で見出した結果、建物や部屋のスタイルと花瓶を調和させることに専心するという新保独特の考え方が生まれたということ。

問五 空欄 X にあてはまる慣用表現として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 トンビが鷹^{たか}を生む
- 2 豚に真珠
- 3 瓢箪^{ひょうたん}から駒^{こま}
- 4 年の功より亀の甲

問六 空欄 Y にあてはまる漢字三文字の言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。

問七 「その足跡から聞こえてくるのはくぐもった静かな音色である」(——線部④)とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 石井の歩んだ道を振り返ってみると、目的もなく意のおもむくままに描いたことでにじみ出る清らかさが感じられるということ。
- 2 石井作品を年代順にみていくと緩やかな自然な変化や深化が見られると同時に、不変のものがあることが感じられるということ。
- 3 石井作品の変遷をみると、確固とした主張がないため変化に乏しく、決して明るいわけではない音楽を連想させられるということ。
- 4 石井作品を制作年別にみていくと、孤独な生活を送ったため石井が画家としての評価を確立しつつあることがわかるということ。

設問は、裏面に続きます。

問八 この文章の表現に関する説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 第7段落で著名な芸術家の名前を列挙することで、文章全体の格式が高められている。
- 2 第16段落等の「……」により文章に余韻よゐんが生まれ、石井作品と文体との調和がもたらされている。
- 3 第17段落二文目の疑問文によって、読者の注意を引きつける試みがなされている。
- 4 第20段落の「――」は、直後で述べられる内容が「――」を含む文章の要約であることを暗示している。
- 5 第22段落で比喩ひゆが多用されることにより、読者を幻想的な世界へと誘い入れる効果が生じている。

問九 石井作品について、本文から読み取れる内容や心情を鑑みて、最も適当な説明を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 画家によって定められた本質的な力で、固有の感性を活かして成功した新保哲也を惹きつけることができる作品。
- 2 画家の強い意志と穏やかな変容によって根源的な美を得た結果、建築家として一流である新保哲也を魅了した作品。
- 3 画家の生き方によって自然と生まれた創造物の持つ力で、新保哲也に投資の価値を認めさせた作品。
- 4 画家の清貧さが映し出されることによって、新保哲也に芸術の新たな可能性を指し示した作品。

問十 問題文中には、誤字が一字あります。その漢字を書き抜き、正しく書き換えなさい。

四

次の文章は、『枕草子』の一節で、「御仏名」(観音絵をかけ、地獄絵の屏風を立てて、その年の罪障を懺悔する仏事)の翌日に、一条天皇が中宮定子に屏風絵をお見せになる場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

御仏名のまたの日、(天皇ハ)地獄絵の御屏風とりわたし^{注1}て、宮に御覽ぜさせたまつらせたまふ。ゆゆしう、いみじきこと限りなし。(宮ガ)「これ、見よ、見よ」と、おほせらるれど、(私ハ)^{注3}さらに見はべらで、ゆゆしさに、小部屋に隠れ臥しぬ。

雨いたう降りて、つれづれなりとて、^{注4}殿上人、^{注5}上の御局に召して、御遊びあり。^{注6}道方の少納言、琵琶、いとめでたし。^{注7}済政、^{注8}箏の琴、^{注9}行義、^{注10}笛、^{注11}経房の中将、^{注12}笙の笛などおもしろし。ひとわたり遊びて、琵琶弾きやみたるほどに、大納言殿、「琵琶の、声やんで、物語せむとすること遅し」と、誦したまへりしに、^{注13}隠れ臥したりしも起き出でて、「なほ、罪は恐ろしけれど、^{注14}ものめでたさはやむまじ」とて、^{注14}笑はる。

注1 「宮」：藤原道隆の娘である定子のこと。一条天皇の中宮(后のこと)であった。

注2 「おほせらるれど」：おっしゃるが。

注3 「さらに見はべらで」：まったく見ませんで。

注4 「殿上人」：清涼殿(天皇の日常の住まい)の殿上の間に昇殿を許された、五位以上の貴族のこと。

注5 「上の御局」：「宮」(中宮定子)の居所。

注6 「道方」：左大臣源重信の子。琵琶の演奏に秀でていた。

注7 「済政」：大納言源時中の子。

注8 「箏の琴」：十三弦の琴。

注9 「行義」：平行義のこと。横笛の名人。

注10 「経房」：源高明の子。

注11 「笙の笛」：細い竹管をあわせて作られた、雅楽などで使用する管楽器の一つ。

注12 「大納言殿」：「宮」(中宮定子)の兄である伊周のこと。

注13 「誦したまへりしに」：朗詠なさった時に。

注14 「やむまじ」：我慢できないのだろう。

四の設問

問一 「ゆゆしう、いみじきこと限りなし」(——線部①)の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 不気味すぎて、かえって笑ってしまう
- 2 たとえようもなく美しく、すばらしい
- 3 気味が悪いこと、この上ない
- 4 かわいらしく、非常に愛着がわく

問二 「いたう」(~~~~線部)を現代仮名遣いに改めなさい。

問三 「御遊びあり」(——線部②)について、

(1) 「遊び」の本文中での意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 漢詩を作ること
- 2 和歌を詠むこと
- 3 楽器を演奏すること
- 4 競馬くらげうまをすること
- 5 かるたを取ることに

(2) 「遊び」が行われた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 天気を回復させるためには、「遊び」を行うとよいと聞いたから。
- 2 地獄絵を見て気が滅入っており、気分転換しようと思ったから。
- 3 屏風絵で気を悪くしてしまった宮に、喜んでもらいたかったから。
- 4 その日は雨がひどく降り、また手持ちぶさたで退屈していたから。

問四 「琵琶の、声やんで、物語せむとすること遅し」(——線部③)は、白居易(白楽天)の長編漢詩『琵琶行』の一節を踏まえたものです。

- (1) 原文「琵琶声停欲語遲(琵琶の声停んで語らんと欲すること遅し)」に、返り点を施しなさい(送り仮名は不要)。
- (2) 大納言殿がこの句を引用したのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 当時の音楽は楽器の演奏だけではなく、演奏にあわせて和歌や漢詩を朗詠することが一般的であったから。
- 2 源道方の演奏だけが称賛されるのが悔しく、自分も漢詩の知識を披露して周囲の評価を得ようと思ったから。
- 3 あまりにもひどい演奏で凍りついてしまった空気を、漢詩を朗詠することで和ませようと思ったから。
- 4 漢詩を朗詠することで自身の罪障の消滅を図るとともに、また部屋に隠れた人をたしなめたかったから。
- 5 言葉を失うほどすばらしい演奏を、その場にふさわしい漢詩を朗詠することで称賛しようと思ったから。

問五 「隠れ臥したりしも起き出で」(——線部④)の主語として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 帝(二条天皇)
- 2 宮(中宮定子)
- 3 大納言殿(藤原伊周)
- 4 殿上人
- 5 作者

問六 「笑はる」(——線部⑤)とありますが、笑われた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 屏風絵を見ることが怖くて退室していたのに、朗詠に惹かれて起きてきたから。
- 2 起き出した直後の表情が、寝ぼけ眼であまりにも間の抜けたものであったから。
- 3 地獄絵を見て自分の罪を懺悔すべきであるのに、仏罰を恐れて逃げ出したから。
- 4 演奏に感動するあまり号泣する姿が、見るに堪えない酷いものであったから。

問七 次の文章は、『枕草子』について説明したものです。空欄ⅠⅡⅢⅣに適当な語句を、後の語群から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

『枕草子』は、今から約一〇〇〇年前のⅠ時代の中頃、Ⅱによって書かれた随筆である。作者が約一〇年間の宮廷生活で見聞したことを軽妙な機知で捉え、歯切れのよい文章で綴っており、「Ⅲ」の文学といわれる。同時代に成立した作品には、『Ⅳ』がある。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1 奈良 | 2 平安 | 3 鎌倉 |
| 4 清少納言 | 5 兼好法師 | 6 紫式部 |
| 7 あはれ | 8 をかし | 9 無常 |
| 10 源氏物語 | 11 方丈記 | 12 徒然草 |



受 験 番 号

1

[illegible]

(※の欄には、何も記入してはいけません)

5



四

（※の欄には、何も記入してはいけません）

※	※	※	※	※	※	※
問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
Ⅲ			(1)	(1)		
			琵琶声 停欲語遲			
Ⅳ			(2)	(2)		

(※の欄には、何も記入してはいけません)

三

※

※

※

※

※

※

※

※

問十
誤

問九

問八

問七

問六

問五

問三

問一

正

問四

問二

(※の欄には、何も記入してはいけません)

(※の欄には、何も記入してはいけません)

5

